

平成 26 年度第 3 回 (9 月度)

理事会報告・運営会議報告

理事会 議事

2014 年 9 月 10 日に平成 26 年度第 3 回理事会・運営会議が理事 11 名、監事 2 名と 4 名の理事代理の方の出席のもと、高輪台日本オーディオ協会大会議室にて開催されました。

理事会に先立ち校條会長から、最近の国内オーディオ市場に関し、「3 月の消費税前駆け込み需要が一巡して、急激に落ち込んできた。特に汎用型が止まっている感がある。しかし、カテゴリー別には、ポータブルオーディオ、CD プレーヤー、ホームシアターセット、2ch 用スピーカーなどは前年比をクリアしており、オーディオ全体では下半期にハイレゾ商品など新製品発売により、101%程度は達成できるものと考えている」との話がありました。

1. 第 3 号議案：新会員の承認を求める件

平成 26 年第 2 回 (6 月) 理事会以降、平成 26 年 9 月 9 日までの間に入会申請のあった、エレコム(株)、(株)シンタックス、並びに、個人正会員 5 名、個人正(シニア)会員 3 名の入会が申請通り承認されました。

エレコム社は IT 関連機器の大手ですが、今後ハイレゾオーディオに注力していくこともあり、今回の協会によるハイレゾロゴ運用を機会に入会となりました。シンタックス社はドイツ RME 社の日本支社で制作機器を扱う法人ですが、音楽再生に特化した音場再生でハイトサウンド(高さ方向)を扱うフォーマットを推進しており、今回の入会となりました。共に今後の新たなオーディオ市場への普及啓発が期待されます。

2. 第 2 号議案：新規入会審査運用規定の承認を求める件

去る 6 月 12 日に行った「ハイレゾリューション・オーディオ(サウンド)の取り組み」に関する記者発表後、ハイレゾロゴ使用を目的とした入会問い合わせが多く寄せられおり、定款の趣旨に則り、日本オーディオ協会に入会を希望する法人の審査を厳正、且つ公正に行うことを目的に提案されました。校條会長から新規入会審査運用規定案の説明がされましたが、一部内容の追加、修正の必要があり、修正案を作成の上、再確認されることとなりました。尚、当規定の運用は修正案の持ち回り承認後となります。

運営会議 議事

1. ハイレゾロゴ関連報告：

協会推奨のハイレゾロゴは既に 9 社が使用を始め、その運用を行っているハイレゾソリューション推進等技術会議より下記の報告がありました。

- ・推奨ハイレゾロゴの追加について：ハイレゾ普及をより早め、使用を希望する法人、商品に合わせ、使用側の選択にて活用できるよう、推奨ロゴの追加が報告されました。
- ・ハイレゾ推進資料について：ハイレゾロゴは協会が定義するハイレゾ規定に合った商品に使用されることになっておりますが、一部流通過程において、使用主旨が正しく理解されていないケースが報告されており、流通でのロゴ使用ガイドとして「ハイレゾ推進資料解説・営業部門編」を作成する旨が報告されました。今後、ハンドブック化(研

修マニュアル)し、会員法人の営業担当への説明、及び、流通への説明を通し、販売促進過程での正しいロゴ使用規定を普及させて行くことになりました。

- ・スマホ、タブレット対応について：スマホ、タブレットをハイレゾロゴ対象機器として認めることが報告されました。認定規格は他のオーディオ機器と同じ条件ですが、ヘッドホンが主要試聴手段となることから、ヘッドホンに関する付帯説明をすることで確認されました。

2. オーディオ・ホームシアター展に関する報告：

出展者数は90社となり、2000年代に入ってから最高出展社数となりました。収支に関しては現時点では70万円程のマイナスですが、今後支出の精査を行い、収支均衡を目指すことが報告されました。

3. 音の日のに関する報告：

今年の「音の日」は12月6日が土曜日になることから12月5日(金)に開催されますが、「音の日」のイベントとして、今年度は、東京藝術大学等、音楽録音制作関係の学科を持つ大学、専門学校の協力のもと「学生の制作する音楽録音作品コンテスト」を行うことが報告されました。

録音制作の企画意図に重点を置いた教育的視点と若手(学生)への間口を広げ、協会活動、しいてはオーディオ業界の活性化につなげることを目的としております。なお、音の匠に関しては現在検討中です。

4. 平成26年度会議・委員会活動報告：

ハイレゾリユーション推進等技術会議では今年度特に重要となっているハイレゾ関係を担当していますが、当会議で討議される課題を必要に応じて「ハイレゾWG検討事項」として各委員会に落とすことが確認されました。また、現在進めているネットワークオーディオサイトのハイレゾ対応も課題をしてあげられました。

DHT委員会に関しては、ATOMS等、縦方向の音場再生技術に対応した委員会活動の提案がされました。

5. 平成26年収支見込み

ハイレゾロゴ関係の支出(商標制作・登録関係)が増加しましたが、ハイレゾ関係での入会があり、トータルとしては収支均衡になる見込みが報告されました。